

令和 8 年度篠路西小学校「学ぶ力」育成プログラム

学校番号：22018

自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

「学ぶ力」	
これまでの成果	課題
<p>自律的な学びの定着 単元単位の AAR サイクルにより、子ども自身が学びを自己調整する姿が具体化。</p> <p>デジタル採点による還元 業務効率化（採点時間 1/3）で生んだ時間を、個別指導やきめ細かな支援へ活用。</p> <p>安心感を基盤とした探究 「PLUS のまほう」を核に、失敗を恐れず協働し合える集団が成熟。</p> <p>ICT の文房具化 多様なデジタルリソースの活用により、個に応じた効果的な学びや言語活動を実践。</p>	<p>「思考の深化」と自己調整 共有で満足せず、単元単位の AAR サイクルと ICT 活用により、納得解を導く思考力と自己調整力の育成。</p> <p>ICT の文房具化と環境整備 端末利用タイミングの自己判断（自分事化）の定着と、学習を阻害する Wi-Fi 環境の安定化。</p> <p>教職員の探究型研修 補欠参観や研修会を通じ、教師も学びをデザインする「学びの相似形」の実現。</p> <p>「余白」の創出と還元 デジタル評価で生んだ時間を、個別指導や日常の「よい姿」の戦略的な発信（可視化）へ充てる。</p> <p>学びを支える自己管理 メディア利用時間など、学習に向かう土台となる生活習慣のセルフマネジメント能力の育成。</p>
<p>「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く相互承認の感度〉の現状と課題</p>	
<p>◆現 状：強みである「安心感」と「PLUS のまほう」を土台に、単元を通じた AAR サイクルが定着。子どもが「学びのコントローラー」を意識し、自信をもって発信・協働する姿が見られ始めている。</p> <p>◇課 題：「伝え合い」から ICT を活用した「思考の深化」への転換。自己調整を支える教師の指導力向上と社会に繋がる「本物の経験」の充実。メディア利用等のセルフマネジメントの育成。</p>	

「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力
 「学びのコントローラーをもっているのは子ども自身」をコンセプトとし、AAR サイクルを通して自ら学びを調整し、社会に生きて働く「本物の経験」を積み重ねる子の育成

AAR サイクルの視点で捉え直した 課題探究的な学習の推進	さっぽろっ子宣言「プラスのまほう」に基づく 自治的な活動の充実
<p>単元単位の AAR サイクル高度化：1 単位時間のみならず単元や題材というまとまりの中で子どもが主体的に学びを調整し、思考を深める学習課題と教師の関わりを追究する。</p> <p>デジタル採点の戦略的運用：デジタルテストを本格運用し、迅速なフィードバックと教職員の業務効率化を両立させる。</p> <p>ICT の文房具化と多様な表現：個の力に応じた多様なアウトプット（スライド・動画等）を選択させ、子どもが必要性を判断して活用・持ち帰りができる環境を定着させる。</p> <p>GT（グロウタイム）の質的転換：基礎学力の定着に加え、情報モラルや対話力、学びの土台となる生活のセルフマネジメント能力の育成を柔軟に組み込む。</p> <p>地域資源を活かした「本物の経験」：篠路の特色を学ぶ体験活動を重視し、実感を伴う課題解決を通して社会と繋がるアウトプット型の探究活動を推進する。</p>	<p>子どもの声を核とした学校創り：「プラスのまほう」をよりどころに、児童による自治的な企画・運営を推進する。</p> <p>子どもの声を学校運営協議会（CS）へ反映させる仕組みを整え、成果の「可視化」と相互承認を通して自己肯定感を高める。</p> <p>社会と繋がる「本物の経験」の創出：地域・企業との連携を深化させ、篠路の魅力を校内外へ発信するなど、実社会に生きて働く「本物の経験」を伴うアウトプット型の探究活動を推進する。</p>

